

II 取組方針

1 成果の検証

◆ ひろしま川づくり実施計画 2011 の取組成果

計画期間：平成 23 年度～平成 27 年度（5 年間）

成果目標：洪水高潮防護達成人口率

施策の柱		主な取組成果											
チャレンジⅠ	災害の防止・軽減対策の充実・強化	<p>主な事業完成・部分完成箇所は次のとおりです。</p> <p>【河川事業】 《完成》新安川（広島市），羽原川（福山市），山倉川（広島市）ほか4箇所 《部分完成》本川（竹原市），手城川調節池（福山市），永慶寺川（高潮事業）（廿日市市）ほか3箇所</p> <p>【ダム事業】 仁賀ダム（竹原市），野間川ダム（三原市），庄原ダム（庄原市）</p> <p>【成果目標】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>現状値 H23 当初</th> <th>目標値 H27 年度末</th> <th>実績値 H27 年度末 (見込み)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>洪水高潮防護 達成人口率</td> <td>52.5%</td> <td>60.3%</td> <td>60.3%</td> </tr> </tbody> </table>					現状値 H23 当初	目標値 H27 年度末	実績値 H27 年度末 (見込み)	洪水高潮防護 達成人口率	52.5%	60.3%	60.3%
	現状値 H23 当初	目標値 H27 年度末	実績値 H27 年度末 (見込み)										
洪水高潮防護 達成人口率	52.5%	60.3%	60.3%										
チャレンジⅡ	自助，共助，公助による地域防災力の向上	<p>○水防活動や迅速な避難行動に役立てるため，XバンドMPレーダによる詳細な降雨観測情報を「河川防災情報システム」上に表示開始しました。</p> <p>○「河川防災情報システム」をより使いやすく更新し，加えてスマートフォンによる情報提供も開始しました。</p>											
チャレンジⅢ	既存施設の適確な運用・管理による安心・安全の継続	<p>○県内全 10 排水機場の長寿命化計画を策定しました。</p> <p>○この計画に基づき，排水機場の電気・機械設備など大型施設の更新を行いました。（尾崎川排水機場，新安川排水機場，坊地排水機場，小山田川排水機場）</p>											
チャレンジⅣ	河川環境の保全と川らしさ復元	<p>○河川の底質改善に向けた対策を行いました。（京橋川）</p> <p>○「多自然川づくり」を取り入れた設計・工事を行いました。（国兼川，玖島川）</p>											
チャレンジⅤ	水辺空間を利活用した賑わいづくり	<p>○河岸緑地へのオープンカフェ出店を促進しました。（京橋川 1 店準備中）</p>											

◆ 河川事業を取り巻く状況変化

これまでの河川整備は、河川整備計画で今後 20～30 年間に実施する河川整備等の区間や規模を位置づけ、河川改修や高潮対策等の整備を進めてきました。

河川整備には長期間を要することから、その間に、県の財政健全化に向けた取り組みや、集中豪雨の多発、河川管理施設の老朽化、河川環境に対する問題意識の高まりなど事業を取り巻く環境は変化してきております。

更に前計画期間中においても、次のような状況変化がありました。

- 東北地方太平洋沖地震を契機に南海トラフによる地震や津波への懸念が増大
- 8.20 広島市土砂災害等を契機に、県民への情報伝達の重要性を再認識（「みんなで減災」県民総ぐるみ運動の展開）
- 関東・東北豪雨災害により、築堤区間防護の重要性を再認識
- 河道内の堆積土や樹木への県民不安の高まり
- 浸水想定区域の想定降雨が最大規模降雨に拡充
- 広島市「水の都」構想に基づく都市河川の親水性を高めていく活動の高まり

< 出典：国土交通省関東地方整備局 >



■ H27.9 鬼怒川の決壊

◆ 河川の視点からの本県の「強み」と「弱み」、将来像

① 「強み」となっているもの【Strength】

- 利便性の高い河川周辺への人口・産業の集積
- 「水の都ひろしま」の景観を形づくる広島市内を流れる河川（太田川、京橋川、猿猴川等）



■ 河川周辺への人口集積



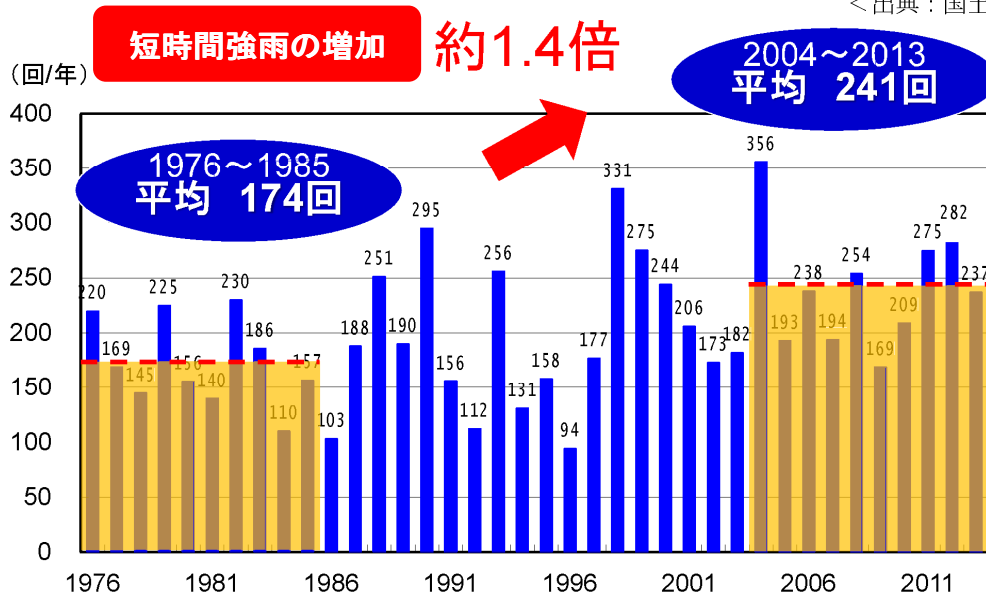
■ 「水の都ひろしま」の景観

② 改善すべき「弱み」となっているもの【Weakness】

- 未改修の河川が多く、過去 10 年間の水害被害額（1,457 億円）と被害棟数（18,319 棟）は、全国平均の約 2 倍近くにのぼる
- 台風の経路となりやすく、高潮被害が繰り返し発生（過去 25 年間で 7 回発生）
- 河川の底質悪化
- 短時間強雨の増加や降雨日数の減少など全国的な気候変動により、広島県においても浸水被害や渇水などの脅威に晒されている

時間雨量 50mm を超える短時間強雨の発生件数が増加（約 30 年前の約 1.4 倍）

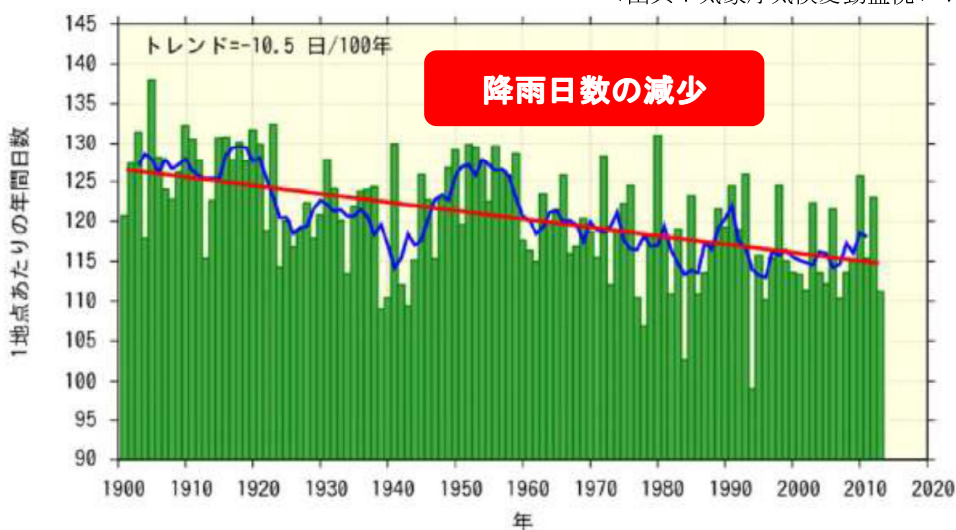
< 出典：国土交通省 HP >



（1 時間降水量 50mm 以上の年間発生回数（アメダス 1,000 地点あたり））

時間雨量 50mm を超える短時間強雨の発生件数が増加（約 30 年前の約 1.4 倍）

< 出典：気象庁気候変動監視レポート 2013 >

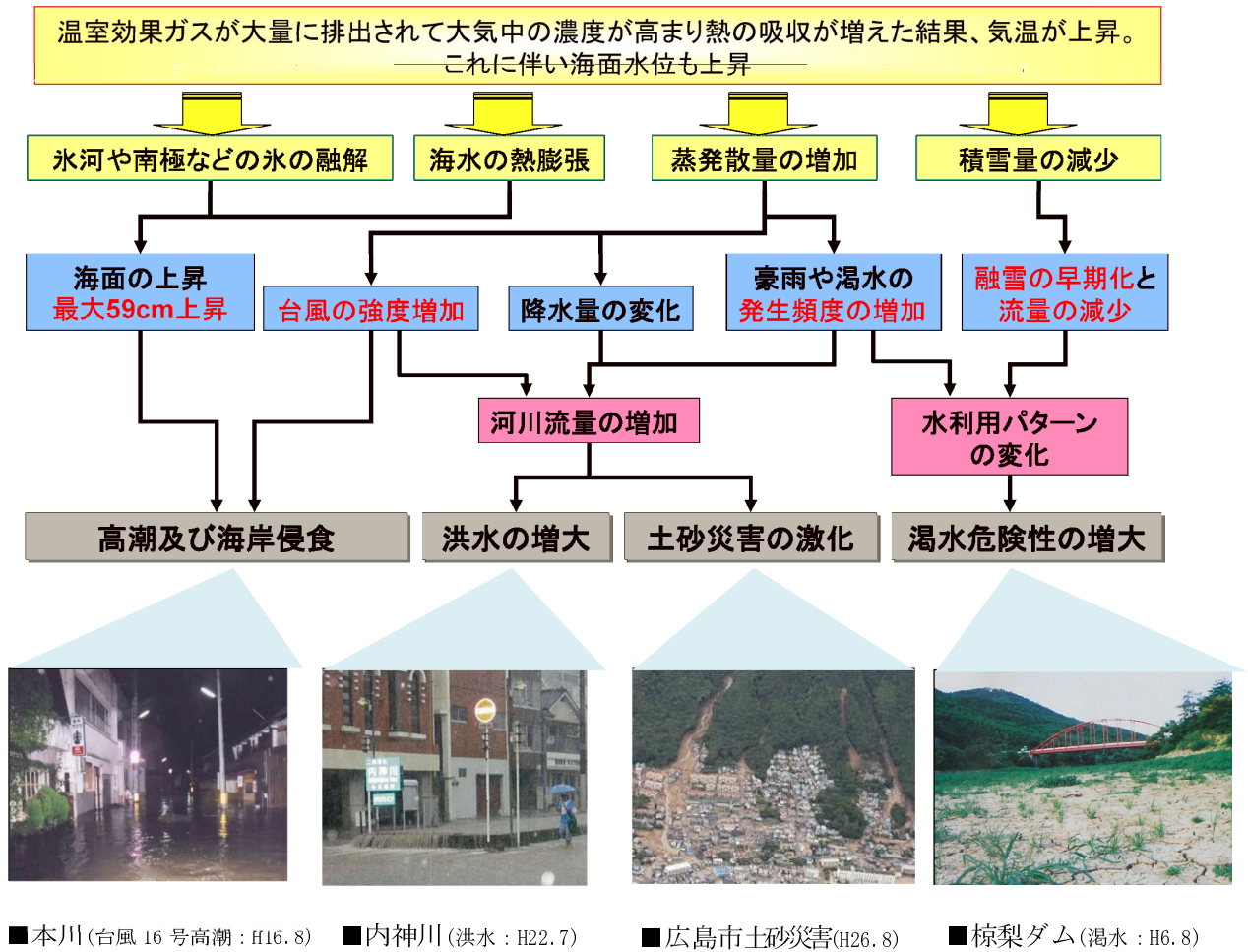


日降水量1.0mm以上の年間日数の経年変化（51地点平均）

※折れ線は5年移動平均、直線は期間にわたる変化傾向を示す。

地球温暖化が水分野にもたらす脅威

<出典：国土交通省HP>



③ 河川事業が目指す県土の将来像

社会資本未来プランが目指す10年後の社会資本のあるべき姿
～河川事業が目指す県土の将来像～

<社会資本未来プランから抜粋>

防災・減災

災害による被害を最小限にするための県土づくりが進んでいます。

既存インフラの機能保全

これまで整備してきた公共土木施設が適切に維持管理されています。

環境保全

再生可能エネルギーが利用され、環境への負荷の少ない持続可能な社会の仕組みの構築が進んでいるとともに、自然環境の保全が進んでいます。

◆ 河川事業の取り組むべき課題

課題Ⅰ 防災・減災対策の充実・強化

県内の防護達成人口率は依然として低い水準にあり、改修を必要とする区間が多く残っています。

また、東北地方太平洋沖地震を契機に、南海トラフ巨大地震による地盤の液状化や津波への懸念が増大し、その対策としてゼロメートル市街地等において「堤防の耐震性向上」が求められています。

課題Ⅱ 想定を超える自然災害への対応

気候変動により、平成 26 年の広島市における大規模災害や平成 27 年の茨城県の鬼怒川における水害など、施設の能力を上回る洪水の発生頻度が高まることが予想され、ハード対策に加え、ソフト対策を用いた防災・減災対策の向上が求められています。

また、雨の降り方や生活様式の変化などにより、渇水被害の発生についても懸念されています。

課題Ⅲ 維持管理・更新時代への対応

高潮時の浸水対策として建設された排水機などの大型施設が、今後集中的な更新時期を迎えることから、長寿命化計画に基づき、中長期的な展望から計画的な維持・修繕を行うことが必要となっています。

また、近年頻発する局地的豪雨による県民の防災意識の向上などから、河川内の堆積土や樹木についての除去要望が高まっており、計画的な対応が求められています。

ダム管理の効率化を図るため、ダムの水力エネルギーの有効活用が求められています。

課題Ⅳ 河川環境の保全と川らしさの復元

河川の底質悪化や、これまで進めてきた画一的な改修により、昔から慣れ親しんできた水辺の魅力が失われ、その復元が求められています。

課題Ⅴ 地域活性化のための賑わいづくりへの対応

河川やダム湖が持つ魅力を利活用した新たな賑わいの場の創出が求められています。

持続可能なまちづくりのための中山間地域等の賑わいや地域活性化の拠点として、河川環境整備などの取組が求められています。

3 基本方針

◆ 課題に対する施策の柱

課題克服のため、次の5つのチャレンジを施策の柱として掲げ、取り組みます。



(1) 事業箇所別の優先度の明確化と創意工夫による早期効果発現

- ① 全ての改修系の事業箇所を対象に整備の優先順位を明確にした上で、優先度の高い箇所から順に早期完成を目指し整備を進めます。
- ② 計画延長が長いなどの理由により完成までに長期間を要する河川については、特に優先して整備する区間の設定や、段階的施工の検討を行い、“早期効果発現”を目指します。
- ③ 大規模な災害の発生により緊急的な対応が求められる事業箇所については、最優先順位に位置付け、再度災害防止に取り組みます。

(2) 河口部の地震・高潮対策事業の重点化

- ① 南海トラフにおけるマグニチュード8～9クラスの地震発生確率は、今後30年以内に70%程度と非常に高い値となっています。
- ② このクラスの地震が発生した場合には、津波や液状化等により甚大な被害が予測されており、浸水被害を防止するため、堤防の嵩上げや耐震性の向上を計画的に進めます。

(1) ソフト対策による災害対応力と地域防災力の向上

- ① 近年頻発している局地的豪雨などによる計画を超える洪水が発生した場合にも、人的被害の回避及び県民生活や社会経済への深刻なダメージの軽減を図るため、ハード対策と共にソフト対策も推進し、減災に取り組みます。
- ② ダム貯水量などの情報提供や節水の呼びかけを行うことにより、水資源に対する意識の普及啓発に努めます。

(2) 防災情報の普及促進や出前講座の実施

- ① 「広島県『みんなで減災』県民総ぐるみ運動」に合わせて、防災出前講座への積極的な取り組みや、報道機関との連携・協力を通じた普及啓発に努めます。

(3) 洪水浸水想定区域の見直し

- ① 近年の局地的豪雨の頻発を踏まえ、浸水想定区域図について、当該河川の計画降雨に加え、新たに「想定し得る最大規模の降雨」に対する洪水浸水想定区域図を作成して、公表します。
また、これを基とした市町の洪水ハザードマップの作成に関する技術的支援を行います。

(4) 堤防の浸透・浸食に係る監視強化

- ① 堤防防護の重要性から、洪水時に堤防を監視する区間を「重点監視区間」として定め、変状等が発見された場合、市町へ情報提供し、水防活動や避難勧告等の発令に役立てます。

チャレンジⅢ 既存施設の適確な運用・管理による安心・安全の継続

(1) 既存施設の適確な運用・管理

- ① 「広島県河川維持管理計画（案）」に基づき、堤防・護岸などの河川管理施設の計画的な維持修繕を継続するとともに、河川の排水機では長寿命化計画を策定して、これに基づいて点検・整備・更新を行ってきました。今後はダムについても長寿命化計画を策定し、これに基づいた点検・整備・更新を行っていきます。
- ② 新たな公共サービスの担い手として、地域住民が自発的に参加する「アダプト活動」を積極的に促進します。

(2) 堆積土等の定期的な調査、管理基準の設定、別途5ヵ年の除去に関する計画の策定

- ① 河川内の堆積土や樹木は、洪水時に流れを阻害することで河川の水位を上昇させ、浸水などの災害を助長するおそれがあることから、今後5ヵ年の対策箇所を示した「河川内の堆積土等除去計画」を策定し、計画的な除去を進めることで、浸水被害を最小限に抑えます。

(3) ダムの放流エネルギーを利用した小水力発電によるダム管理機能の向上

- ① ダムの放流水を利用した小水力発電を行い、ダム管理用電源として利用することで、ダム管理の効率化を図るとともに、大規模災害時のダム機能の維持など危機管理の向上を図ります。

チャレンジⅣ 河川環境の保全と川らしさ復元

(1) 水辺の魅力復元と多自然川づくり

- ① 河川の底質改善や、「多自然川づくり」に取り組み、河川が本来持っている生物の生息環境や美しい景観を保全・創出します。
- ② ダムの整備と適確な運用・管理により、河川に生息する魚や植物、景観や水質の維持等、河川環境の保全と水資源の適正管理に努めます。

チャレンジⅤ 水辺空間を利活用した賑わいづくり

(1) 水辺空間の利活用の促進

- ① 既存の階段護岸やダム、河畔緑地等の多目的利用を促進し、水辺の魅力を活かした新たな観光資源や集客の場の創出など、賑わいづくりや地域活性化を支援します。
- ② 「水の都ひろしま」構想を推進する中で、広島駅周辺地区の水辺を水の都の玄関口にふさわしい広島の象徴的な空間とするため、広島市と連携し「美しい川づくり」に取り組みます。